

令和 6 年度第 1 回鎌倉市食育推進会議 議事録

1 日 時 令和 6 年 7 月 29 日（月）18：00～19:20

2 場 所 鎌倉商工会議所 301 会議室

3 傍聴者 なし

4 参加者 鎌倉市食育推進会議委員 計 9 名

中村丁次氏（会長）、河内公恵氏（副会長）、安齊勘一郎氏、伊藤京子氏、岩谷葉月氏、加藤順子氏、上月康子氏、原勇司氏、牧田知江子氏
（欠席：富田弘美氏）

事務局 計 8 名

市民健康課 石黒次長、押山補佐、石井係長、門田係長、上林、長瀬、荒川（義）、荒川（果）

5 議事内容

事務局：

本日の会議成立について報告、傍聴者なし。今回より新たに委員となった上月委員に挨拶を依頼。

上月委員：

鎌倉保健福祉事務所の人事異動に伴い委員交代となった。鎌倉保健福祉事務所には 10 数年前にも在籍しており、鎌倉の地に戻ってきた。少しでもお力となれるよう取り組みたい。

中村会長：（開会の挨拶）

今年の秋ごろから国民は毎朝栄養の話に触れるのではないかと。NHK の連続テレビ小説で「おむすび」という栄養士が主役であるドラマが始まるからだ。NHK のプロデューサーと 2 時間の対談をする機会があり、なぜ栄養士が主役となるドラマを作ったのかと質問をしたが、プロデューサーの回答に感動した。そのプロデューサーは 1 年間栄養の勉強をし、私が執筆した栄養の本をすべて読んだという。勉強を通して栄養の重要性を知って人々に知らせなければならないと使命を感じ、栄養士のドラマを作ろうと提案したが、栄養士は地味な職業であるためドラマにならないと周囲からは反対された。それに対してプロデューサーは、ドラマにならないものを知らせるのが NHK の役目であり、栄養が重要であるにも関わらず人々は知識を持っていないためドラマで正しい知識をつけてほしいと言った。すばらしいドラマになると思うので、ぜひ視聴して栄養や食育について知ってほしい。

【議題 1 令和 5 年度取組実績及び指標のモニタリング状況】

事務局：

資料 1 令和 5 年度取組実績を参照。新規事業は 1 件で、かまくらこども相談窓口きらきらの開設である。廃止事業は 2 件あり、いきいきサークルが令和 5 年 8 月で終了、生涯学習課

の各種講座・教室が指定管理者に移行したため廃止となった。市民健康課での取組状況について説明させていただく。9 番のアプリを使って歩くとポイントがもらえる「古都をトコトコ鎌倉健康歩イント」では、現在登録者が 4,700 人を超えており、アクティブユーザー率は 56%となっている。昨年度までに登録があった 20～74 歳までの国民健康保険に加入している登録者の中で、歩数データが半年以上ある、レセプトでの除外条件がないなどの算定条件に当てはまる方 104 人を算定対象者として抽出し、歩数増加量を算出したところ、平均 1,050 歩の増となった。前年度は 519 歩の増であったので、約 500 歩の増加になる。歩数増加量と年代別による 1 歩当たりの医療費削減効果の歩数原単価を計上したところ、医療費削減効果が約 122 万円（1 人あたり 11,708 円）との結果となった。前年度は同じ計算方法で 115 万円の医療費削減であった。国保登録者は全体登録者の 4 割程度であることや、登録から日が浅く歩数データが十分でない方などもいることを踏まえると、実際にはそれ以上の医療費削減効果が見込まれると考えられる。累計登録者の内訳は男性 38.5%、女性 61.5%。年齢別では 40 代から 60 代は 20～23%と比較的高くなっているが、20 代 3.6%、30 代 10.7%であり、今後は若い世代へのさらなる P R が必要だと考えている。

未病センターは予約制での実施としているが、予約数は増加傾向にあり、令和 5 年度の利用者は 223 名であった。利用者の全例が保健師又は管理栄養士からの結果説明を伴う保健指導を受けている。利用者の年代別に見ると 70 代が最も多く 39.9%だが、50 代の利用率が令和 4 年度の 13.4%から 18.8%に増加した。今後さらに壮年期や子育て世代への普及啓発も行っていきたいと考えている。

資料 2、「指標のモニタリング状況について」を参照。令和 5 年度のモニタリング項目を追加している。参考値としているものは単純比較できないものが多いがあるが、たばこや歯に関する項目などでは改善傾向と見られるところもあるが、お酒に関しては男女ともに飲酒量の増加傾向がみられた。一方で特定健診では受診率、特定保健指導の実施率にはともに改善がみられた。しかし、がん検診受診率では乳がん検診以外は検診率の低下がみられた。やせや肥満、メタボリックシンドロームやその予備軍の該当者については大きな改善はみられないが、肥満は男性で多く、やせは女性で多いという結果も現れている。これらは引き続き大きな課題と考えている。また、食育推進会議に先立ち庁内関連課、小学校、中学校の代表者で開催した食育連絡協議会では、モニタリング指標にはないが中学校給食の残食状況について話題となった。令和 5 年の主食の残食率が 22.6%、副食が 28.0%、汁物が 6.8%であった。小学校の残食率が全体で 4%ほどというところから見ると多い数字となっている。ランチボックスでのデリバリー方式での提供であることから、量の調整ができないことが大きな要因であるようであった。

（質疑応答）

中村会長：

歩数と医療費の計算方法があるのか。

事務局：

国交省の研究が導き出した計算方法がある。歩数原単価という。「古都をトコトコ鎌倉健康歩イント」については、効果に対して市が何%支払うという成果連動方式での契約をしている。効果に関して追加でお支払いしたのは 20 万円程度であったがそもそも事業運用に何百万とかかっているのでは効果に関して支払った額は少なめになる。104 名のデータで計算しているが、この人数は、4700 人中、アプリ導入の前後半年間歩数のデータがある方を抽出しているが iPhone のみが有効であり Android は計上できない。かつレセプトと照合し、癌や精神疾患等除外する疾患を持っている人を抜いて分析している。そうやって算出された 104 名のデータを基に計算している。検証人数が少ないのではないかという懸念があるが統計学上単純にこの 104 人を元に 4700 人分を計算することはできないと事業者に言われた。最近はこのアプリを使って事業を進めている自治体が増えており、ほかの自治体からも計上できる人数を登録者数に掛けて計算することはできないのかという意見が出てきているようだ。鎌倉市は契約期間の途中で効果評価の計算方法を変更することはできないが、事業開始から 4 年経過し、キャンペーンごとに新規登録者を獲得している状況だが、今年度終了時点での登録者の目標は 6000 人であり、あと 1300 人獲得しなければならない。なかなか厳しい状況である。

中村会長：

お酒の量はなかなか減らないようだ。WHO の方針では禁煙の次はお酒だと言われている。先日 WHO の職員と会食する機会があったが、全く飲酒をしていしなかった。公的な場では乾杯含めて飲酒してはいけないという指示が半年前に出たとのことだ。

加藤委員：

未病センターについて質問。糖尿病専門クリニックに勤めている。採血データだけでなくフィジカルデータの経時的な変化を見たいという患者さんがいる。以前未病センターを紹介させていただくこともあったが、最近は医療法 42 条施設、健康増進施設を医療施設の付帯施設としてつくる取組が増えている。調べる限り見つけられなかったが、鎌倉市にはないのか。

事務局：

医療法となると県の管理となる。また、鎌倉市は市民病院等医療施設をもっていないため市として把握していることはない。市内の医療法人がこういった動きをするか現時点では特に聞いていないが、医師会に確認したい。

加藤委員：

藤沢市ではあるようだ。

事務局：

藤沢市は市民病院や市が委託している北部の医療センターがあるので、そこを活用しているのではないかと。市が医療施設を持っている点で鎌倉市と大きな違いがある。

原委員：

資料1で72番の環境政策課と99番の教育指導課で「牛乳パックのリサイクル」と事業内容が全く同じ記載があるが、別々にやっているのか。対象は少し異なるようだ。

事務局：

担当課に確認する。

（会議終了後原課に確認しました。環境政策課では小学校・中学校で出た牛乳パックのリサイクルを業者に委託しており、教育指導課では牛乳パックの洗浄、乾燥、リサイクルへ出す一連の行動を指導しているとのことでした。環境政策課の対象者は次年度以降中学校も含めた標記に変更することとなりました。）

上月委員：

事務局の説明を補足させていただく。中学校給食の残食率についてだが、保健福祉事務所では特定給食施設の指導を行っているため中学校給食の現場を見る機会があった。食事は全てトレーにふた付でセットされて生徒に配布されるため、ふたも開けずに残してしまう生徒もいるようだ。食育や食品ロスという教育を行う中で、声掛けも行い、食べるようになってほしいと思う。

【議題2 今後のスケジュールについて、プロポーザルにおける最終提案者の選考結果について】

事務局：

今後のスケジュールについて、資料3「健康づくり計画推進委員会・食育推進会議の令和6年度以降のスケジュールについて」を参照。現行の鎌倉市健康づくり計画、食育推進計画は、令和7年度で計画期間が終わるため、令和8年度から新たな計画を策定するが、内容に重複する部分が多くあるため、一体化して策定することとしている。そのため、それぞれの審議会についても、計画策定より前の令和7年度から統合する予定である。こちらの食育推進会議の委員の任期が終了する令和7年6月以降に、新たな委員会の委員を委嘱させていただく予定である。資料4を参照。一体的な計画策定に向けては、鎌倉市健康づくり計画及び鎌倉食育推進計画の一体的策定支援業務を委託することとし、公募型プロポーザルにて業者募集・選定を行った。プロポーザルには3者の参加があり、選考の結果、株式会社サーベイリサーチセンターを最優秀提案者として選定した。同者と協議を行った結果、プロポーザルの提案内容どおり、令和6年度、7年度の2カ年で、1千100万円で契約を締結した。資料は戻り、資料3を参照。計画策定支援を受け、令和6年度は市民アンケートを実施するとともに、次期計画の骨子を確定する。令和7年度は具体的な計画案を作成し、パブリック

コメントを行い、令和8年3月には次期計画を策定する。また、市民に配布する分かりやすい計画概要版の作成も併せて行う。

(質疑応答)

河内副会長：

事業者との契約金額の中には調査対象者に対する謝礼を含めているのか。

事務局：

謝礼は発生しない。無作為抽出した対象者にアンケート調査票を発送する。

河合副会長：

アンケート調査票の配布、調査、回収が業務であるのか。

事務局：

今年度はアンケート実施がメインだが、来年は計画を作っていく業務も含んでいる。2か年の契約である。

【議題3 計画評価及び策定のためのアンケート調査の内容確定について】

事務局：

資料5「令和6年度 鎌倉市健康づくり及び食育についての意識調査」を参照。昨年度から引き続き委員をお願いしている方は何度もお覧になった内容かと思うが、次期計画の基礎資料とするため、市民アンケートを行う。3歳児、小学6年生、中学3年生、16～19歳、青年期・壮年期・高年期の方と質問項目を分け、現行の健康づくり計画、食育推進計画の指標になっている項目や、新たに必要と思われる項目を盛り込んだ。こちらの内容は、昨年度こちらの審議会でもご了解をいただいているものである。なお、前回会議の際、小学6年生と中学3年生については、通塾時の食事についての質問を加えてはどうかというご提案をいただいた。事務局で検討させていただいたが、通塾時の食事についての質問を作成するにあたっては、まず通塾しているか、週に何日かなど多くの質問をする必要がある。質問項目を減らすべく整理し、他の質問内容がほぼ固まっている段階で追加するのは難しく、また、委員会でご審議いただく時間も取れないため、今回は見送らせていただくこととした。

質問項目については、プロポーザルで委託事業者より1点追加の提案があった。「あなたは健康づくりに関心がありますか」という質問で健康づくりへの関心度を聞くことにより、アンケート結果を健康づくり「関心層」と「無関心層」に分けて分析することができ、無関心層へのアプローチ方法の検討に資する集計ができるとのことだった。こちらの提案については採用することとし、16歳以上のアンケートに1問追加をする。

本日机にお配りしたのが、委託業者と作成したアンケートの帳票である。対象者ごとに帳票を分けているため、5種類ある。一番上のA4片面のものは、インターネットでの回答の案内文であり、こちらも5種類作成しているが、内容があまり変わらないため、本日は1種類のみお配りしている。インターネットの回答画面については現在準備中のため、QRコ

ードもまだ空欄となっている。アンケート帳票は、実際には対象によって色分けし、A3 サイズ両面に印刷し、中綴じで綴じる。表紙に市長挨拶や記入方法をなるべくシンプルに表記した。また、小学6年生と中学3年生については、保護者の方へのメッセージも入れ、回答への協力をお願いしている。こちらのアンケートは、お盆明けの8月下旬に発送し、9月17日〆切として、10月の郵便料値上げまでには回収を完了する予定で準備を進めている。

(質疑応答)

上月委員：

意見になるが、アンケートの通し番号155番、食育分野で「食中毒・食品表示、健康食品といった、食の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断していますか。」という記載があるが、違和感を覚える。この表記では健康食品が安全ではないという誤解を招くのではないか。こういった意図で文言を選ばれたか意見を聞かせてほしい。

事務局：

この質問は食育指標となっており、前回行ったアンケートと文言を変えていない。前回のアンケート作成時の意図は分かりかねる。そのまま継続している質問である。

上月委員：

現在、健康食品が話題になっているが、健康食品だからといって必ずしも安全でないということではない。アンケートの質問を読むことで学習することもあるので、次回改定の際は考慮していただきたい。

事務局：

承知した。

原委員：

3歳児の質問について。実際に3歳未満を育てる親としてアンケートを見てみると、「～をしているか」「～をしているか」と畳みかけるように問われ、できていないことに心が痛む。このような質問を設けるのであればアドバイスや相談先についての案内やみんなの食堂など関連するちらし等を入れて欲しい。知らない人もいるかもしれない。また小学6年生にも入れて欲しい。

事務局：

みんなの食堂マップについては市立小中学校の全児童生徒に配布している。3歳児未満に関しては鎌倉市内全保育園に配布しており、全園児に行き渡る枚数は配布していないが目につくところに掲示していただく数を配布した。今年度は残数がなく、また契約上も難しいがご意見として受け取りたい。

原委員：

承知した。

牧田委員：

アンケート対象者の抽出数はそれぞれ何名か。

事務局：

対象者について今回資料はお配りしていないが、前回の資料で提示させていただいた。3歳児が700人、小6が375人、中3が375人、16-19歳375人、20-39歳1300人、40-60歳が1300人、61-80歳が1300人を無作為抽出して配布する。いずれも前回の健康づくり計画調査のアンケート実施時と同じ数である。

牧田委員：

対象者の何パーセントが答えたのか。アンケートは母数が多い方が良いと感じる。抽出した人に回答をもらうことに理解はできる反面、インターネットで回答ができるのであればホームページから回答できるようにするなど、もっと広く回答を集められる方法を考えるべきか。意識の高い方が回答し、集計に偏りが出る懸念もある。ただ、お伺いした対象者数だと鎌倉市民17万人と比較して少ないという印象がある。

事務局：

前回の健康づくり計画のアンケート実施時に人口の何割の回答があれば結果として分析、提示できるのかという議論になり、有識者にご検討、ご教示いただいて対象者数を決定した。前回の回答率は52.3%、有効回収数は3188であった。今回は、最初はQRコードのみでの配布を考えていた。しかし、紙と一緒にQRコードを送り回答方法を紙とWEBで選択できるようにした。QRコードのみの配布は現段階では乱暴なのではないかと考えたためである。そのため母数が小さくなっている。今後デジタル化がさらに進んでいけば、次回はもっと違うかたちでできるのではないかと考えている。

中村会長：

細かい質問で、答える方も大変だと思うが、半分くらいは回答してくれている。アンケートは普通30%くらいしか回答がないことが多い。

事務局：

今回も前回数字に近い回答が得られればと考えている。

【その他】

事務局：

今年度の食育事業について紹介する。今年度、新たな取組として2歳6か月から3歳11か月を対象とした幼児食育事業で実習、実食を伴ったおにぎりきょうしつを全4回で企画している。既に6月に第1回を終えたが、募集開始と同時に定員が満員になり、注目度の高い事業であると感じている。かつお節を本節から削る体験を組み込んでおり、保護者も初めて体験する方が多く、満足して帰られた。その他に、学童保育である放課後かまくらっ子において、本日も原委員にご参加いただいているが、湘南漁業協同組合鎌倉支所の漁師さん達に講師を依頼し、鎌倉で穫れる魚や近隣の海の状況について学ぶ講座を企画している。まだ企画段階ではあるが、近隣の海の問題点などについても触れ、広義の食育について学べる

機会となると思う。

前回会議にてご報告した「みんなべ食堂マップ」と予定表が完成し、本日委員の皆様にお配りさせていただいた。みんなべ食堂が集まって定期的に会合を開いており、そこと協力して各食堂の情報を取りまとめた。市立小中学校の全校生徒に配布した他、市の関連施設や保育園などにも配布した。また、LINE配信をするとともに、市ホームページにも掲載している。ご自宅の近隣にある子ども食堂・地域食堂について知っていただくきっかけになればと思っている。6月後半から配布しているが、食堂を運営している方からも、新しい方からの予約が増えた、など嬉しい報告をいただいている。

(質疑応答)

牧田委員：

情報提供であるが、鎌倉食品衛生協会が昨年から食育の一環として手洗い教室を開催している。放課後かまくらっ子でも昨年度2か所、今年度も秋に放課後かまくらっ子たまなわで手洗い教室を開催する。最近は食育においてもコロナなど感染症の問題があり、幼少時から手洗いを学んで欲しいため、食品衛生協会の手洗いマイスターと、鎌倉女子大学の山本先生に依頼し、学生の紙芝居などで分かりやすく知識を広めている。

上月委員：

みんなべ食堂は誰でもと記載されているが、最近は高齢者の共食も健康に寄与するとのデータがでてきている。高齢者は孤食をしている人が多いが、そちらへの展開はいかがか。市民健康課としてのお考えを聞きたい。

事務局：

みんなべ食堂はみんなで食べることをテーマにしている子ども食堂、地域食堂であり、「子ども食堂」と名乗っているところの対象はこどもに限られていることが多いが、地域食堂として高齢者も歓迎しているところもある。そのためこどもと大人の利用者が同数といったところもある。

また鎌倉市では、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施で低栄養の対象者への保健指導を行うが、食事環境に問題がある対象者も予想される。電話や面談などの際に孤食などの問題点がみえてきた場合は、高齢者も参加可能なみんなべ食堂を案内しようと計画している。

河内副会長：

みんなべ食堂でボランティアをしたいという大学生が増えているが、申込先が分からなかったり、様々な団体があつたりして躊躇してしまう学生もいる。市民健康課に聞いたら情報提供してくれるのか。サポート側への情報提供はいかがか。

事務局：

ボランティア受入の可否は各食堂に確認しており、市のホームページにも載せている。リ

アルタイムの状況は分からないので、ホームページでボランティア受け入れ可となっている各食堂に問い合わせいただくと回答いただけると思う。

河内副会長：

みんなべ食堂のホームページがあるのか。

事務局：

市のホームページの中にみんなべ食堂を紹介するページがある。

中村会長：

通常の営業との境目はどこになるのか。全くお金を徴収しない訳ではないのか。

事務局：

大人 500 円、こども 100 円からせいぜい 300 円くらいの料金設定で運営しているところが多い。店舗で営業とは別で開催しているところもある。営利ではないところが大きな違いだと考えている。お店の方だけでなく地域のボランティアも一緒に活動していて営業と分離している。

中村会長：

行政的な補助金は出ていないのか

事務局：

現時点で市からの直接的な補助金はないが、フードバンクなどの食材を保管する場所をお貸ししたり人的支援をしたりなどの間接的補助をしている。この先地域の居場所にもなっていく。今後市とのつながりも拡充していくと考えている。

加藤委員：

食堂を開催したくて、届出は用意しているが場所が見つからない人がいる。その際場所探しなどの相談先はあるのか。

原委員：

個人飲食店をやっている知り合いに頼んだという人がいた。昼のみ営業している店舗で夜こども食堂を行う等。

事務局：

みんなべ連絡協議会にも相談はたくさんあるそうだが、代表者が常々言っていることは、意志をもってしっかりと運営していく人が居たらなんとかなるということである。複数人で協力する事業である。意志がある人がいるようならば、場所に関してはヒントが出せるかもしれないためこちらで協議会に聞き、お返事する。地域はどこか。

加藤委員：

大船の調理施設がある公民館等で開催することを考えていたため、大船周辺の地区だと思うが、確認して事務局に連絡する。

事務局：

何か情報提供できるかもしれない。事業は全国的にも広がっており、協議会や代表者は色々な情報を持っているため繋いでみる。

加藤委員：

前回の会議で食育に携わりたい知り合いの農家さんの情報発信について委員の皆さんにお尋ねし、SNS が良いと提案いただいた。その後、富田委員の明照フラワーガーデン保育園のフェスティバルで野菜の販売をしないかという話をいただいた。実際に販売し、完売御礼であった。それ以降園児が農園に出向いて野菜を購入するなど交流が続いているという嬉しい報告をいただいた。コミュニケーションをとることで人脈が広がり、フェスティバルで見かけたと言われることもあり伝わっている実感がある。今後食育インストラクターの資格をとって魅力を伝えていきたいそうさ。SNS では興味のある情報を取りに行くことが多く、食に興味がない人へのアプローチをどうしたら良いかと常々考えている。アンケートでは関心層と無関心層からの回答が分かるということで、楽しみである。

【次回の予定について】

事務局：

次回会議は令和 7 年 1 月頃を予定している。8 月に行うアンケート結果についても報告する予定である。

以上